

日本栽培漁業協会・玉野事業場における最近のキジハタ種苗生産量の増大と問題点について

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2025-04-24
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 福永, 恭平, 野上, 欣也, 吉田, 儀弘, 浜崎, 活幸, 丸山, 敬悟
	メールアドレス:
URL	所属:
	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2014357

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



日本栽培漁業協会・玉野事業場における最近のキジハタ
種苗生産量の増大と問題点について

福永恭平，野上欣也，吉田儀弘，
浜崎活幸，丸山敬悟

キジハタの種苗生産における減耗には、飼育初期の開
口前後の減耗、飼育中期～後期にかけての栄養疾患によ
ると思われる減耗、後期の共食いによる減耗がある。こ
の内、栄養疾患と思われる斃死、共食いが大きい減耗要
因と考えられてきた。これ等の減耗要因を除去するた
めに、玉野事業場では、小型ワムシや配合飼料の導入によ
る飼料体系の改善、選別による種苗サイズの均一化等を
内容とした飼育試験を繰り返してきた。その結果、1986
年以降減耗は逐次減少し、1989年には30 mm 種苗 40
万尾を生産することができた。本報告では平成元年の結
果を中心にキジハタ種苗生産量の増大について述べると
ともに、問題点の整理を行った。

栽培技研，19(1)，33-40 (1990)